

私たちは毎日当たり前の事に水を使っています。洗濯物や料理、お風呂を沸かす時、蛇口をひねりさえすれば安全な水がどこでも手に入ります。蛇口をひねれば、きれいで安全な水を何の心配もせずに飲むことができるのは当たり前だと思っていました。そんな生活が当たり前ではないということに気付かされたのは家族でタイに行った時でした。

行く前に母からタイの水は飲んではいけない、ということ聞いていました。が、まさかホテルの洗面場にはつきりと「これは飲料水ではありません」と書いてあるとは思っていませんでした。試しに水を出してみると、若干色があり少しさびのような臭いがしました。どうしたらこの様な風になってしまうのだろうかとなり、早速調べてみると原因となっているのは、配水管の大部分が石綿管であることに加え、管路の老朽化や水道施設の維持管理方法が遅れているため適切な器具の運転、保守が行われていない状態だということがわかりました。他にもホテルには歯をみがくための水でさえ用意されていました。その後、ホテルからはなれる度に水があるか心配になり、最終的には必要以上の水を持ち歩く事になり、日本ではそんなことを心配することはなく、いつも豊富な水資源に囲まれどれだけ恵まれていたかに気付くことができた良い経験でした。

その後ふと気になり他にもタイの様な国が世界にあるのかを調べてみたら、自分の予想と違い実際水道水を安全に飲める国は十五の国しか存在せず、アジアの中では日本だけなのだということがわかりました。日本での当たり前は世界のおよそどの国では通用しないのです。

では、逆に日本ではどうして水道水を飲むことができるのでしょうか。私は、浄水場などの設備が整っているという事と、日本が今の環境を守るために様々

な取り組みを行い、良い環境を保つことを人々が普段から意識しているということが理由だと思います。ポイ捨て禁止と書かれた看板があったり、地域で定期的な清掃活動が行われていたり、ゴミが落ちていたらボランティアの人々が拾っていたり、ボランティアに参加していなくても見つけたら放置しておかずに拾う人がいたり多くの取り組みや自分から環境のために行動することが出来る人が大勢います。

私は社会全体でこの様な取り組みを行い、美しい自然を守ろうとすることは大切だし、より多くの人の環境へ対する意識を高める良い方法だと思います。

まずはポイ捨てのような自然環境の破壊につながる行為を絶対にしない様に気を付け、その他にもボランティアの活動に参加してみたり、食べ残しをしないことや買い物に行く時にはエコバックを持って行くことを心掛けるなど個人で意識できることはいくらでもあると思います。

一人の活動では大きな変化は生まれませんが、まずは自分でできることに一生けん命取り組み、この考えを広く皆が理解して行動してもらえる様になれば環境改善につながると思います。そしてこのような活動を通して世界でより多くの人がきれいで安全な水を飲める様になると良いと思います。